2023_0725「キノコ同士の会話（動画）」日々の理科 3275 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

モジホコリ（変形菌の一種）の変形体は、どんなに大きくなっても単細胞（多核体）です。一つの細胞として活動しているので、変形体全体が同調するように脈動する様子が観察できます。

キノコの多くは「真菌」なので、多細胞生物ということになります。キノコ（子実体）は被子植物で言えば「花」か「果実」のようなもので、胞子を拡散させるための器官ということになります。菌体の本体は地中や朽木の内部にあるわけです。

ヒトヨタケの子実体の成長を観察していて面白いことに気づきました。キノコ（子実体）同士が、まるで会話でもしているように、完全に同調して成長しているのです。傘の成長、茎（柄）の伸長、更には傘が液化するタイミングや、茎が折れてしなるタイミングまで一緒です。子実体には大きさの個体差がありますが、大きさに関係なく完全に同調しているところが面白いと思いました。

恐らく地中の菌糸（或いは空気を通しての化学物質）を通して、何らかの会話をしているのでしょう。これがヒトヨタケ独特の性質なのか、ほかのキノコ（真菌）でも見られる現象なのか、実に興味深いです。いつか探究してみたいと思っています。（2023 年 7 月下旬／北軽井沢）